

1. 総括

昨年度末以降、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、各事業所大きく運営が左右されることとなった。まずは、利用者の命を守るための感染防止、クラスターにさせない、濃厚接触にならない支援を考え取り組んできた。しかし同時に新型コロナウイルスから利用者の「生活」や「活動」をいかに守っていくか、それぞれの事業所が向き合わざるを得ない一年であった。

結果として、各事業所での感染自体は防ぐことが出来た。これには感染防止についてご理解いただいた利用者・ご家族のご協力があつたことを忘れてはならない。また現場で感染防止について緊張感をもって対応してくれた各部門の職員にも感謝したい。一方、様々な場面で制限が加わってしまった利用者の「生活」や「活動」への支援は、まだまだ工夫できることがあると思うので次年度へ繋げていきたい。

コロナ禍においても、地域や関係の皆様温かい応援や多くの励ましのお言葉を頂いた。改めて感謝申し上げるとともに、次年度の法人30周年の節目を踏まえ、一層地域の皆様、関係の皆様とのつながりを大切に、地域課題への貢献、さらに共生社会の実現に取り組んでいきたい。

2. 事業の総括

(1) 新型コロナウイルス感染予防対策

- ・マスク、手洗い、換気、消毒、検温等感染対策の基本の徹底。
- ・各事業所ウイルスを持ち込まない、拡げない対策（アクリル板の設置や活動場所のエリア分け等）とともに、衛生物品の備蓄の確認、調達。
- ・発熱者等があつた場合は本部と連携して対応を行った。
- ・国県からの情報の共有、感染情報の共有。
- ・県や保健所等から情報収集をしながら対応を確認。
- ・感染が疑われる利用者・職員が発生した場合の対応の協議。
(施設、グループホームで感染が疑われる利用者、職員が発生した場合、つばきはらファクトリーより応援職員の派遣。)
- ・新型コロナウイルス感染症の発症や感染の疑いがあり隔離された利用者に対し職員が対応した場合の特別緊急対応手当の支給を決定。

(2) 創立30周年事業の検討、準備

かすみ会の創立30周年に際し内容を協議した。地域に根差した法人としてお世話になった方々に感謝を伝える機会として、またご利用の皆さんにとっての楽しみの機会として、新型コロナウイルス感染拡大の動向を踏まえながら内容を協議した。

(3) かすみ会まつり

各事業所内で、それぞれの企画により利用者へのお楽しみ行事を実施した。

(4) 社会福祉法人としての取り組み対応状況

①情報発信

- ・広報委員会を開催し、広報誌かすみ会だより（春夏号及び秋冬号）を発行。
- ・ホームページ、ブログ等のネットワークを活用し、情報発信を行った。

②地域における公益的取り組みの推進

- ・施設実習の受け入れ等の地域の福祉人材の養成
- ・障害者への理解促進のための見学、学習機会の提供
- ・交流施設こもれび、グランドの地域開放
- ・地域の障害者福祉計画の策定に参画

(5) 人材の育成と虐待防止

①理念、倫理綱領、職員行動規範の再徹底

法人理念唱和を継続、NHKの特集番組「この子らを世の光に～共に生きる社会を目指して」を新人研修で視聴するなど理念のより深い理解と浸透を図った。

②外部研修・見学の実施

- (i) 虐待防止の見識を深めるための研修参加
- (ii) 専門性、支援技術向上の研修参加

③虐待防止役職員研修の実施

部署ごとにビデオ研修を受けレポートの提出を行った。

日 時：令和3年1月22日（金）～随時

内 容：サポーターズ・カレッジ配信の障害者支援の基礎

障がい者虐待防止 「障害者虐待とは」・「障害者虐待はなぜ起こるのか」

(6) 改修工事

- ・職員宿舍改修工事（令和3年1月4日完了）

老朽化した職員宿舍を改修するとともに、グラウンド側2部屋を相談支援事業所として転用し、かいぜ寮本体から相談支援事業所かいぜ寮を移転した。

- ・かいぜ寮玄関改修工事（令和3年1月4日完了）

玄関扉を自動ドアに更新、手洗用洗面台の設置、下駄箱整備、床張替え、仕切戸の設置。

(7) 物故者法要（令和2年11月7日）

こもれびで理事長、事業管理職員、家族の会会長が参列し、光雲寺僧侶の読経により執り行う。人ひとりの命の尊厳を守る法人行事として継続した。

(8) 働き方改革への取り組み

正規、非正規の待遇差を改善するために、非正規職員にも休職・特別有休休暇制度および資格手当を適用することとした。

(9) 陶芸活動に係る賢愚窯を利用するの焼成について

社会福祉法人としての地域における公益的な取り組みに位置づけられるような地域の社会資源としての利用を検討し他法人の陶芸事業とも模索したが、具体的に進められなかった。（電気窯を利用するの30周年記念品の作成を行った。）

(10) 人材確保対策

- ・安定的なサービス提供及びかすみ会に期待されている事業の実現には、人材の確保と育成についての取り組みが最重要課題となっている。

(具体的取組状況)

- ・求職者用パンフレット等の作成 ・見学会の実施・就職サイトの活用
- ・インターンシップの受入れ ・ホームページにおいて法人及び事業所情報と求人情報の発信
- ・福祉人材センター主催職場説明会等への参画

(11) 安全運転に関する取り組み

令和2年9月～12月に実施した、令和2年度無事故無違反運動について、法人として取り組み、安全運転管理者協会及び彦根警察署から達成事業所として表彰を受けた。

3. 具体的事項

(1) 評議員会の開催と検討事項

令和2年 6月16日（決議の省略）

社会福祉法人かすみ会2019年度事業報告書（案）について他

令和3年 3月25日（決議の省略）

社会福祉法人かすみ会令和3年度事業計画書（案）について他

(2) 理事会開催と検討事項

令和2年 5月29日 (決議の省略)

社会福祉法人かすみ会2019年度事業報告書(案)について他

令和2年 9月 8日

社会福祉法人かすみ会職員宿舍等改修工事(案)について他

令和2年10月 2日 (決議の省略)

社会福祉法人かすみ会職員宿舍等改修工事請負契約の締結について他

令和2年12月24日 (決議の省略)

育児・介護休業等に関する規則変更(案)について

令和3年 3月 1日

理事長の辞任に伴う新理事長選定に関する件について

令和3年 3月16日

社会福祉法人かすみ会令和3年度事業計画書(案)について他

(3) 監事監査の開催

令和2年 5月21日

社会福祉法人かすみ会2019年度事業報告書及び決算報告について

(4) 安全衛生委員会の開催と検討事項

職場内巡視の実施(以降毎月実施)

令和2年 4月28日 令和2年度 安全衛生委員会年間計画(案)について他

令和2年 5月26日 ハラスメントについて他

令和2年 6月23日 健康診断・ストレスチェックの結果他

令和2年 7月28日 夏バテ解消できる食事

令和2年 8月25日 コミュニケーション

令和2年 9月30日 各事業所の巡視による危険個所の確認 (全事業)

令和2年10月27日 アルコールの多量摂取による健康障害(産業医)

令和2年11月24日 交通安全について他

令和2年12月22日 アンガーマネジメント

令和3年 1月26日 風通しの良い職場づくり

令和3年 2月24日 運動促進(健康診断にむけてのプラス1000歩運動の促進)

令和3年 3月23日 ワークライフバランス他

(5) あんしん委員会の開催と検討事項

コロナウイルス感染症予防対策のため開催を中止。書面にて報告。

(6) 虐待防止委員会の開催と検討事項

コロナウイルス感染症予防対策のため開催を中止。書面にて報告。

(7) 事業管理会議の開催(7回)と検討事項

各事業所の責任者が事業の情報・状況・方針の共有を踏む為、話し合いを行なった。

令和2年 6月10日 新型コロナウイルスに係る対応について他

令和2年 7月22日 評価表について他

令和2年 8月18日 コロナ対策について他

令和2年11月13日 コロナ対策について他

令和2年12月 8日 人事関連他

令和3年 1月28日 法人中長期計画について他

令和3年 2月 9日 創立30周年記念について他

かいぜ寮事業報告

1. 総括

令和2年度かいぜ寮は、54名の定員に対し、46名（男性27名、女性19名）でスタートし、年度途中に男性1名・女性1名が介護施設移行のため退所された。新規入所者では、50歳代男性1名・20歳代女性1名が入所された。しかし全体としては、高齢化、重度化により食事、入浴排泄等の介助で個別対応の必要な方が依然として多い。

国内の新型コロナウイルス感染症の影響で、感染が全国的に蔓延する中、入所者の帰省や外出等を制限し、外部利用者は利用の自粛をお願いした。また、8月の個別懇談会は中止した。9月の家族旅行は中止とし代替行事を行った。

感染防止の対応を第一とし、利用者やご家族には、面会や帰省等が出来ない状況の中、ご家族に対して、利用者の様子の写真を送らせていただき、利用者の施設での様子を動画に収め日々の様子をホームページ上で見ていただけるようにした。

2. 重点課題と評価について

1. 利用者障害の特性に配慮した生活環境の整備と支援の向上を図る。

具体的方策

- ① 利用者の多様な心身の状況に対し、障害特性を踏まえ、支援員・看護師・栄養士がその専門性を発揮し、また連携を密にし、チームによる質の高い支援を行う。

評価

支援員・看護師・栄養士がそれぞれの立場から意見交換を行い利用者個々の特性に沿った支援を行うことが出来た。また、介護医療についても、医務と連携して、個別の利用者の身体状況に応じて丁寧に介助出来るように情報交換し対応にあたった。

- ② 介護技術等の研修を計画し、専門知識を習得する。

評価

外部研修が中止となることが多く、思うような研修に参加することができなかった。
男女各支援会議で意見を出し合って利用者本位の支援が行えるよう対応にあたった。

- ③ 高齢・重度の利用者、行動障害のある利用者の過ごす生活環境の整備については、各部署と連携を図り、計画的に進める。

評価

利用者の障害特性を理解し丁寧な対応と、居室の環境を整え利用者が快適に過ごせる配慮をした。
今年度は、環境整備として、男子棟廊下に仕切り戸、管理棟玄関に中扉を設置したことで、新型コロナウイルスの感染防止はもとより冬場の暖房効果の改善にもつながり、また利用者が集中して移動される時間帯のトラブルや事故等を未然に防ぐことが出来た。

その他の取り組み（新型コロナウイルス感染症対策）

勤務前の検温や手洗い・消毒の徹底、全職員マスク着用の徹底を図ることはもとより、必要に応じてフェイスシールド、ゴーグルの着用など感染防止対策に努めた。また換気を徹底するとともに、職員自身が持ち込まない、濃厚接触者にならないように心掛け、支援員室、休憩室、事務所等もアクリル板を設置するなど、万が一持ち込んでしまった場合も感染を拡げない対策をとった。また、一度に感染者が増えないよう活動や食事場所を男女別になるよう分けて対応し、また可能な限り対応職員も決めて対応した。さらに、かいぜ寮内で感染の疑いのある方が出た場合に素早く対応できるよう嘱託医との連携を密にするとともに、隔離対応できるよう短期入所棟を整備した。人的な対応については法人全体で対応出来るよう協議した。

3. 事業・活動報告

(1) 日中活動

- ・感染防止の観点から利用者の全体朝礼は中止し、管理者等が各棟に出向き必要な情報をお伝えするように

した。

- ・新型コロナウイルス感染症予防対策として、男女棟別に活動を行った。
- ・体力維持のために可能な範囲でグラウンド、歩行や散歩を行い、また個別の対応では棟内でエアロバイクの利用や踏み台昇降などを行った。

(2) その他

- ・作品展示、出展・・・ぴかつ to アート展に応募。
- ・余暇支援・・・ドライブ(外出自粛一部解除)・ビデオ鑑賞、折り紙、塗り絵、お菓子作り等
行事等外出支援

月	行 事
4月	花見(6日)
6月	かすみ会まつり代替行事(弁当・スライドショー)
8月	お盆余暇活動(13日・14日)
9月	敬老行事(16日) 家族旅行代替行事
11月	レクリエーション(外出代替) 駄菓子屋
12月	クリスマス会(24日)
1月	初詣=オンラインによる(2日)、新年会(14日)

4. 共通の活動

(1) 苦情・事故対策

苦情・事故報告から、再発防止に向けて事故内容を分析し対策を講じた。

事故報告	5件	移動中の転倒5件
苦 情	2件	支援方法について2件

(2) 危機管理(防災・防犯)

実施日	訓練内容
5月27日	通報・避難・消火
7月 9日	通報・避難・消火(夜間)
11月5日	訓練(水害)避難
2月16日	通報・避難・消火(夜間)

(3) 研修

今年度は新型コロナウイルス感染症のため多くの研修が中止になったが、専門的な研修等は受講することが出来た。また、Zoomなど新たな形式での研修機会があり参加することが出来た。

虐待防止関係研修

月 日	内 容	場 所	人 数
12月2日	滋児成協 虐待防止へのアプローチ研修(オンライン)	—	1名

人材育成

月 日	内 容	場 所	人 数
4月～	新人研修	施設内	1名

専門的研修

月 日	内 容	場 所	人 数
7月4日	滋賀県災害派遣福祉チーム養成研修 1名	米原市	1名
11月21日	滋児成協 看護職情報交換会	Zoom	1名
12/16・17 22・23 2/25・26	強度行動障害支援者養成 基礎研修 3名 強度行動障害支援者養成 実践研修 1名	彦根市 大津市	3名

12月10日	新型コロナウイルス感染症の基礎知識と対策	彦根市	1名
1月28日	滋児成協 事務職情報交換会	Zoom	1名
3月12日	サービス管理責任者更新研修	彦根市	1名

(4) ボランティア

月 日	団 体 名	作 業 内 容
10月 7日	彦根5人の会	花壇整備・垣根剪定
10月29日	天理教	除草作業
3月11日	稲枝クラブ	こもれび・かいつぶりの掃除・ガラス拭き等

(5) 実習・研修の受け入れ

- ・新型コロナ感染症予防対策のため、びわこ学院大学、龍谷短期大学、京都文教短期大学、華頂短期大学の実習を中止。また、10月に予定していた滋賀県総合教育センターの初任者経験者研修(特別支援学校)についても中止させていただいた。
- ・インターンシップの受入では、10月23日にびわこ学院大学4年生(女性)1名を受入れ、令和3年度の採用に結びついた。

5. 医務

- ・インフルエンザ予防接種は、利用者全員受けられた。
- ・出勤後各棟を訪問し、バイタルサイン、食事、排泄など情報収集し、判断を誤らないよう医務職員双方で情報共有し必要時医療に繋げた。
- ・利用者の健康状態は年間3回発行している「医務だより」で家族、後見人などに伝えた。
- ・利用者検診は予定通り実施した。乳がん検診はマンモグラフィーで痛みを伴い、レントゲン撮影で被曝の問題もあり受診困難な利用者については家族に説明、承諾を得て「利用者も、職員も無理をしない、リスクを負わない」検診を行った。
- ・コロナウイルス感染症対策として短期入所棟を受け入れ場所とし、備品準備、ゾーニングを行った。

<通院の状況>

(延人数)

診療科目	内科	外科	脳外科	精神科	皮膚科	歯科	泌尿器科	整形外科	神経内科	呼吸器科	眼科	耳鼻咽喉科	救急外来	合計
	51	32	4	3	20	64	33	11	3	6	36	19	3	

<入院の状況>

(延人数)

診療科目	内科	外科	脳外科	精神科	皮膚科	歯科	泌尿器科	整形外科	神経内科	呼吸器科	眼科	耳鼻咽喉科	救急外来	合計
	2	1		1				1			1			

- ・R2年度はコロナ禍での通院対応となり、マスクを正しく着用できない利用者の通院に苦慮した。
- ・コロナ禍での入院は病院の面会禁止措置により、利用者には会えず、利用者の情報や状態を充分把握することができなかつたため不安が募った。
- ・利用者によっては術後安静が保てないため、病院からの要請で、家族の付き添いが求められる場合がある。今後も入院時に付き添いが求められた場合の対応については、重要課題になると思われる。

6. 給食

利用者の高齢化・重度化に対応するために、栄養ケアマネジメントを強化し、栄養ケア会議を定期的に行っている。昼食を中心に栄養士がミーラウンドを行い、実際に利用者の摂食状況を知り、支援員にも話を聞くことで、厨房職員とも相談の上食材の形状等見直すことができた。多職種できめ細かく食事摂取状態を把握し、改善点を整理して利用者の健康上の問題点や、食環境についても話し合い、医師のアドバイスをいただきながら改善してきた。毎週金曜日に利用者献立を渡すときにリクエストメニューもお聞きするとともに、利用者献立には食育に向けた内容を記載し、地産の旬の食材等も取り入れながら献立に反映している。

食事形態

主食/副食	主 食		副 食				割合
	おかゆ	軟飯	ペースト食	刻み食	粗刻み食	普通食	
男子 27	0名	3名	0名	2名	8名	17名	37.0%
女子 19	2名	1名	1名	5名	7名	7名	65.0%

※ 副食の割合とは普通食以外の食事を提供している利用者の割合をいう。

摂取栄養量

	エネルギー (Kcal)	たんぱく質 (g)	脂質 (g)	カルシウム (mg)	塩分量 (g)
基準量	1750	50.0	45.4	600	9.0
かいげ寮平均	1754	71.2	45.4	573	8.0

1. 総括

計画相談支援の利用率は湖東圏域では、凡そ100%となり、例年新規の事業所も参入してきている。基幹相談支援事業所（ステップアップ 21）を中心に、障害者自立支援協議会の従来からの部会に加え、色々なサービスとサービスのはざまの課題に焦点を当てた「成人期の夕方支援」「高齢化する障害者」のプロジェクトが動きだし、甲賀、東近江圏域から続く「高次脳機能障害」に関する行政や支援機関をむすぶ調整会議の発足、人材育成・定着に関わる部会の取り組みなど、様々な課題への挑戦が行われている。当事業所も諸会議への参加を通してケースの理解や、利用できる社会資源作りにも言及する機会が増えている。

新型コロナウイルス感染症の防止対策として、緊急事態宣言開始後は事業所や利用者宅への訪問をやめ、電話やメール、郵送でのモニタリングを行う機会が増えた。休校になり、放課後等デイサービスの需要もあったが、感染を恐れて自宅での過ごしを選択するご家族もあり、「息の詰まる思いをしていた」と伺い、日々の生活リズムは日中を過ごす場所がしっかり機能していることで回っていたのだと改めて知ることができた。作業所等も、感染防止対策に試行錯誤を繰り返しながら、他に行き場のない方々の受け入れに奔走しておられ、居宅事業所についてもいつも以上の感染防止対策をとり、緊張感の中で利用者へ寄り添った介助をしてくださっていることに感謝しかない。

コロナ対策として、自立支援協議会を中心に「在宅生活困難障害者支援事業」が開始され、当事業所でも12月から対象となる利用者に、事業の主旨についての説明を行っている。令和3年4月現在、事業を利用されるに至った方はおられなかったが、引き続き他機関連携をしながら状況の推移を見守っていきたい。

感染防止対策と、相談事業所の独立という目的から、1月より職員宿舎を改修した「相談支援事業所かいぜ寮」に事業所を移転し、業務を行っている。事務所と面談室を独立させ、より機能性が高くなったと感じている。相談業務や事務作業がスムーズに進められるよう、今後もかすみ会の各事業所との連携を強めていきたい。

2. 重点課題に取り組んだ事項

(1) 他機関と連携しつつ、利用者、家族理解に努め、虐待防止に継続的に取り組む

コロナ対応により家庭への訪問を自粛するなかで、電話やメール等での状況確認や子育て支援担当課との連絡を通じての情報共有を行った。学校が始まり、日常が落ち着いてきたことで緊張感が減ったご家族もある。引き続き、関係機関との情報共有を行いながら、ご家族のしんどさに耳を傾けるという相談支援の役割を担っていきたい。

(2) 多様な相談に対応できるよう、研修や他業種交流に積極的に参加する

新型コロナウイルスへの感染対策のため、予定されていた研修が中止、もしくは「Zoom」を活用した研修を受講する形が多かった。

参加月	内容
7月	ことう地域チームケア研究会「権利擁護について」
	ステップアップ21研修会「感染症対策って何していますか？」
10月	令和2年度発達障害に関する支援者講座「特別支援教育」「医療」
11月	ことう地域チームケア研究会「地域でのひきこもり支援を考える」
	滋賀県障害者虐待防止・権利擁護研修
	滋賀県重症心身障害児者及び医療的ケア児者コーディネーター養成研修
2月	湖東地域障害者自立支援協議会 行動障害部会 研修
	彦根市子ども・若者支援地域協議会 実務者会議 研修
3月	知的障害に関する研修会（資料配布とメールでの質疑応答）

(3) 障害を持つ方々をめぐる地域の課題を知り、解決に向けた取り組みに参画する

コロナ禍により、研修や会議そのものが中止され、規模を縮小しての開催、「Zoom」等のオンラインを利用した開催となるなど、参加方法を配慮していただいて協議に参加した。

「愛荘町福祉機関地域連携会議」では、“防災”や“ひきこもり支援”をキーワードに各地区の取り組

みや困っていることについて、障害者や高齢者、単身世帯などへの関わり、特性理解やサービス・相談機関へのつなぎ方など様々な意見が交わされた。民生委員、介護福祉の事業者、障害福祉の事業者、社会福祉協議会といったそれぞれの立場の方の顔が見える場での話し合いは、非常に有意義であったと感じている。

「彦根市子ども・若者支援地域協議会 実務者会議」では、生きづらさを抱え、家にこもりがちな方たちの理解につとめ、また社会参加へのきっかけになるサロンや相談窓口などの取り組みや現状について知ることができた。生きづらさの中には障害が含まれていることもあるため、社会資源としてこういった場を知っておくことは、今後必要と考えている。

令和2年度 計画相談支援利用者内訳 (令和3年3月31日現在)

	かいぜ寮利用者	グループホーム利用者	つばきはらフクトリ 一含む地域利用者	計
彦根市	23	2	75 (15)	100 (15)
豊郷町	3		7 (3)	10 (3)
愛荘町	4	1	32 (23)	37 (23)
甲良町	1		5 (1)	6 (1)
多賀町		2	4 (1)	6 (1)
東近江市	5	1	1	7
近江八幡市	3		1	4
日野町	1			1
京都市	1			1
計	41	6	125 (43)	172 (43)

※ () 内は児童 (再掲)

※就労継続支援B型利用に係るアセスメント利用者含む

令和2年度 障害者相談支援事業 (市町からの委託事業) 実績

	彦根市	豊郷町	愛荘町	甲良町	多賀町
障害者	55	9	13	5	4
障害児	7	1	8	0	0
実人数計	62	10	21	5	4
件数	165	30	73	26	7

1. 総括

利用者の状況については、9月にそよかぜ利用者1名退所され、定員11名中10名（サンコスモ滝井：5名、そよかぜ：5名）の方が利用されている。令和2年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため、利用者には通所や外出、帰省の自粛、マスクの着用などこれまでの日常生活から制限のある生活となり、利用者にとっても大きな不安や負担となっていたと思われるが、大きな混乱もなく過ごすことができた。健康面において、食材宅配業者を利用してきたことで、前年度以上に肥満傾向も改善し、健康的な食生活が送れている。ただ、加齢による健康状態の変化が生じており、かいぞ療の看護師や医療機関などと連携をとる事が年々増えてきている。利用者の高齢化への対応については、環境の見直しを行いながら相談支援事業者とも課題等の共有を行い、他施設への移行も必要に応じて検討している。また利用者の自立支援についても、関係機関など地域との連携を図りながら、必要に応じて支援体制の構築を図る必要がある。

運営面において、令和3年1月から1名の方が体験利用されており、関係機関とも連携をとりながら、正式な利用につながるよう支援していきたい。また世話人についても、平均年齢（71.3歳）と高くなっており、業務内容の見直しの他、バックアップ体制など安心して働ける職場環境・体制構築が必要となっている。

2. 重点課題に取り組んだ事項

(1) 利用者理解を深め、虐待防止に取り組み、権利擁護意識の浸透を図る。

新型コロナウイルス感染防止対策のため、外部研修に参加できていないが、法人虐待防止研修として世話人会議を利用して、ビデオ研修会を実施した。各世話人から虐待等に対する考えを共有でき、意見交換を行いながら日頃の支援を振り返る機会となった。

また世話人が利用者の対応について気軽にサービス管理責任者や支援員に相談できる関係性を築けている為、利用者の変化が共有しやすい環境となっている。

(2) 利用者の意向を大切にしながら、家庭的な雰囲気を継続し、快適な暮らしができるよう支援する。また利用者の高齢化に伴う転倒やヒートショックなど環境面での課題を整理し、リスク軽減を図る。

脱衣場、トイレなどヒートショックが懸念される場所に暖房器具を設置し、暖かい環境で安全に生活できるよう配慮している。また、居室の清掃や整理整頓が苦手な利用者には、使いやすくなるように支援員が提案して本人と一緒に居室の環境を整えた。ホーム周辺の除草作業は昨年度の対策を継続して行い、景観維持を保っている。節目ごとの行事や食事を大切にし、利用者にも季節の移り変わりを楽しんでもらえるようにした。帰宅時間が合わない利用者もいるが、世話人とのやりとりを楽しみながら家庭的な雰囲気の中で食事ができている。

3. 入居者の状況

(1) 援助内容

①具体的内容

(生活環境)

各居室の清掃・整理整頓は、できる限り利用者本人で行ってもらうようにしている。居室の備品や衣服等の購入や破棄などは、本人や家族と相談しながら対応している。

ヒートショック対策として、トイレ・脱衣場に暖房器具の設置を行っている。

新型コロナウイルス感染防止対策として、玄関及びリビング内にアルコール消毒液、食卓へのアクリル板、キッチンカウンターに飛沫防止シートの設置等を行っている。

(保健衛生)

起床時に体温・血圧（特定の利用者のみ）・体重測定（月1回）を行い、毎日の体調の把握に努めている。体調不良時には看護師と相談し、必要に応じて医療機関を受診している。利用者によっては通院に同行し、連絡ノートを利用するなど家族と連携をとっている。

(食事)

昨年度より、食材宅配業者に変更している。食材宅配業者の栄養士の献立を参考に、利用者の嗜好や健康状態に配慮して提供している。利用者の半数以上が肥満傾向にあったが、体重も減り、生活習慣病の予防や改善にもなっている。

(余暇)

新型コロナ感染防止対策のため、予定していた外部イベントが中止となり、参加できなかったが、利用者個々の買い物などの余暇活動やサービス利用については感染防止対策に留意した上で参加してもらっている。

月日	内容	場所	参加者	
			サンコスモ滝井	そよかぜ
6月14日	創立記念パーティー	各ホーム	5	5
8月14日	花火大会	各ホーム	4	4
9月28日	Mさん送別会	そよかぜ	—	6
12月17日	クリスマス会	各ホーム	5	5
2月2日	節分(豆まき)	各ホーム	5	5

②社会参加について

新型コロナ感染防止のため、かいせ寮の対応方針を参考に取り組んでおり、状況に応じて、利用者にも協力してもらい、外出や帰省を控えてもらうなど対応している。

③地域生活、職場における問題への対応について

作業所との対応は、日中活動の様子やホームでの様子、帰省時の様子など連絡ノートを活用し、状況によっては直接電話連絡で情報共有を行っている。また、企業就労している利用者は、会社と連絡を取り合い、本人の状況を伝え、対応している。

④相談

利用者から職場やホーム内での人間関係、外出予定、家庭における困り事などの相談は多岐にわたる。普段の関わりの中で、相談を受けた世話人は、支援員、サービス管理責任者に口頭もしくは業務日誌等を通して報告をし、共有するようにしている。受けた相談については、一緒に考えたり、提案を行ったりするなど解決できるように取り組んでいる。また利用者間のトラブルなどの相談は、本人の同意を得たうえ、世話人会議等で話し合い解決できるように取り組んでいる。

⑤個別支援計画

利用者個々の受給者証の更新の時期に合わせて、個別支援計画の見直しを行っている。また、サービス等利用計画との整合性や利用者のニーズに基づいた支援内容となるように計画を立てている。

⑥家族・後見人等との連携

利用者ごとに連絡ノートを準備し、帰省時には、ホームでの様子などを記入し持ち帰ってもらい、帰省中の様子(新型コロナ感染防止対策で、帰省時の外出先や体調なども含む)を記入してもらっている。また個別支援計画のモニタリング等に合わせ個別懇談を実施し、家族の意向や状況など確認する機会を定期的に設けている。

(2) 世話人について

毎月、ホームごとに世話人会議を開催し、利用者に関することや業務に関することなど情報や課題の共有をし、協議する機会を設けている。また虐待防止研修など世話人会議で実施し、知識を共有する機会を設けている。体調管理表を準備し、出勤時の体温を記録してもらい、健康状態の把握に努めている。

(3) 障害者への理解促進のための見学、学習機会の提供

見学等の依頼がなかったため、実施していないが、新型コロナ感染防止対策のため、ホーム内への立ち入りを制限している。

(4) 防災・防犯について

防災対応マニュアルを基に、避難訓練(火災訓練2回。水害訓練1回)を計3回実施した。避難の際、歩行が不安定な方には車いすを使用して安全に避難できるようにした。

外部からの不審者対策として、防犯カメラや人感センサーを設置し、防犯対策を行っている。

つばきはらファクトリー事業報告

今年度は、新型コロナウイルス感染症のため、当事業所でも、マスク、手洗い、検温を徹底し換気、食事時には衝立をするなど感染症対策を図った。しかし、利用者の行事や研修が実施できず、楽しみにしていた利用者には、大変残念な思いをさせた。

就労収入は、緊急事態宣言後に、前年度の半分くらいに仕事が減り、その後、徐々に回復したが、前年度に比べると大幅な減収となった。工賃については、経費節減と県からの生産活動支援金や工賃変動積立金を取り崩すことで、平均工賃月額が前年度の26,573円から25,614円に若干の減少にとどめることができた。

就労移行支援事業では、コロナ禍ではあったが、1名の利用者が就労することができた。しかし、就労アセスメントは、9名から2名と大幅に減少した。

就労定着支援では、本人と毎月面談を行い、計画相談と連携しながら、生活が安定するようにサービス調整を行った。また、必要に応じて事業所に行き、事業所とコミュニケーションを取り、一人も退職することなく、継続して就労できた。

1. 重点課題

(1) 一人でも多くの方が、一般就労できるように支援する。

実施内容

前半は、緊急事態宣言も出たこともあり、感染の心配から就労支援については、施設内で就労に関する勉強会を行った。後半から、感染症対策を行いながら、ハローワークが開催するジョブガイダンスに参加したり、企業見学を行ったりした。

結果 昨年よりトライアル雇用された方が1名就労に結び付いている。

(2) 利用者がやりがいをもって仕事ができるように支援する。

実施内容

JSSJ(シートベルトの組み立て)の作業は写真などを使って利用者にわかるように手順書を作り、作業の手順をわかりやすくした。また、台車を作り、商品を運びやすくした。

新たに宮川バネ工業株式会社から、バネの作業を請け負い、利用者のできる作業のバリエーションを増やした。バネ作業についても、利用者にわかるように手順書を作ったり、治具(加工や組み立ての際、部品や工具の作業位置を指示・誘導するために用いる器具)を作ったりして、利用者が作業しやすいようにした。



JSSJ で使っている手順書



宮川バネで使っている治具

結果 新しい作業は、利用者に人気があり、率先して作業をされるようになった。手順書や治具を使うことで、利用者一人一人ができる作業が増え、利用者の自信につながった。

(3) 人材育成を行う。

実施内容

職員会議で、サポーターズ・カレッジのビデオ研修を使い利用者支援の基礎的な研修を行った。

また、JAF ホームページにある危険予知トレーニングを行い、自動車運転時にどのような危険が潜んでいるのか確認を行った。

Zoomなどを使って、外部研修や会議にも参加した。
 結果 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、他の施設の見学はできなかった。しかし、ネット環境を使った研修を促進した。内部研修として、職員会議を使い、動画による研修を行った。実践者の具体的な話などの動画を見することで、障害者の基礎的な理解を深めることができた。特に JAF の危険予知トレーニングでは、臨場感もあり、職員にも好評だった。職員と一緒に研修することで、同じ情報の共有が図れた。

2. 就労に向けて支援

(1) 就労の状況

月 日	利用者数
8月16日	1名

3. 就労支援事業活動について

(1) 委託業務（請負）

	請 負 先	内 容
下請け	弘陽工業株式会社	ボルト組み立て・袋詰め・検品
	株式会社くすかみ	タオル箱詰め・検品 検針
	ジョイソン・セイフティ・システムズ・ジャパン株式会社	シートベルトの部品組み立て
	株式会社 トコロ製作所	ナットの切粉取り・検品
	水谷醤油醸造場	醤油フタ閉め・検品
	宮川バネ工業株式会社	バネの組付け
製造	稲枝商工会	なちやつぶ製造
メンテナンス	聖泉大学	清掃作業
	かいぜ寮	清掃作業
その他	歯ブラシ定期交換サービス	歯ブラシの梱包・名づけ・販売 販売代理店 ステップアップ21
	古紙回収	ダンボール回収 (かいぜ寮 聖泉大学など)
	農業組合法人 ファームかいぜ	苗箱洗い
	有限会社 山本設備工業	除草作業

(2) 自主製品販売

品 目	販 売 先
和っふる	美浜館・あいしょう館

4. 苦情処理・事故について

事故報告	0件
------	----

5. 行事

内 容	実施日	利用者参加
お花見	4月2日	18名

6. 避難訓練

実施日	訓練内容	参加状況	
		利用者	職員
5/18	消火・通報・避難	17名	8名
6/15	水害訓練	22名	8名
10/19	消火・通報・避難	19名	7名